

芸文だより

第32号

平成27年 3月15日
村山市芸術文化協議会

第50回村山市芸術祭シンボル事業 市制施行60周年・芸文協50周年記念「第九演奏会」



合唱団は本番まで練習を重ねてきました



開場前からたくさんの観客が詰めかけました

村山市市制施行六十周年と村山市芸術文化協議会五十周年を記念し、第五十回芸術祭シンボル事業「第九演奏会」を十二月七日、市民会館大ホールで開催しました。これは、第九を歌う会実行委員会（齋藤峻実行委員長）により企画された事業です。

山形交響楽団による演奏会は二部構成で、山響正指揮者大井剛史さんがタクトを振り、初めにベートーヴェンの「レオノレ」序曲第一番で開演しました。続く第二部では、交響曲第九番二短調「合唱付」作品一二五を演奏しました。

演奏終了後、満員の客席からは「ブラボー」の声と称賛の大きな拍手が沸き起こり、鳴りやまない拍手の中、指揮者、ソリストに花束が渡され、「歓喜の歌」を高らかに響かせた演奏会は感動のうちに幕を下ろしました。



村山市芸術文化協議会五十周年

和の結晶が大輪の花

そして新たな創造を

村山市芸術文化協議会

会長 齋藤 峻

平成二十六年は、村山市芸術文化協議会が結成されてから五十周年の節目の年である。五十年前を振り返ると、当時の先輩たちが日夜汗して立ち上げた村山市芸術文化協議会の加盟団体は、わずか三団体であった。

そして五十周年の歳月が流れる間に各ジャンルの加盟がひとつ、またひとつと増え、今や十六の団体が加盟するまでに発展し、毎年秋の村山市芸術祭を中心に市内外での活動を展開し、多くの人がびと心を和ませ、いやしてきている。「一人の力ははかないものである。二人の力が合わされば、その力は二倍どころか三倍にも五倍にもなる。十人合わせれば、その力は計り知れないものになる」この力の現象は、五十周年記念村山市芸術祭の各ジャンルの発表の場で発揮されたと思う。十月下旬から十二月月上旬まで約一カ月半、ステージ部門、展示部門とも今の力を如何なく百パーセント出し切ったすばらしいものであった。

そして、シンボル事業である「第九演奏会」が十二月七日に開催されたが、一人ひとりの力の結集の象徴でもあった。節目の年の三回目の公演であったが、今回の取り組みは、次の本市芸術文化活動を担う若手の育成に主眼を置き、ソリストに村山市民の大学生や若手を登用したことである。

各ジャンルとも若年層の育成が現在の大きな課題となっているが、今回の英断は必ずや将来、本市芸術文化の振興に光明を差すものであろう。今回の「第九演奏会」の公演は、出演者の和が大きな力となり、ステージと観客がひとつの舞台をつくり出し大輪の花を咲かせ、芸術文化の隠れる底力を如何なく発揮するものとなった。

市民のみならず、これから村山市芸術文化活動に対しご指導とお力添えをよろしくお願い申し上げます。

若い音楽家が活躍

次世代の音楽が動き出す

昨年十二月、「第九演奏会」が市民会館で行われ、本市出身の若い音楽家たちが活躍した大変意義のある演奏会となりました。この演奏会は、市社会音楽連盟を中心とした村山市民による第九を歌う会実行委員会が運営を行い、村山市の協力を得ながら開催することができました。

演奏会では、市出身の音楽家村川千秋先生が創設した山形交響楽団に演奏を依頼し、指揮は山響正指揮者で人気若手マエストロの大井剛史さん。そして、合唱は市民合唱団を募り約百五十人が集まり、その合唱指導を楯岡高等学校音楽教諭の布川清史さんが務めました。布川さんは、十年前の第九演奏会でソリストも務めています。さらに、ソリストは市出身者をそろえたいという実行委員会の強い希望から、四人中三人が市出身者に決定。村山市と市芸術文化協議会それぞれの記念にふさわしい、村山市民による第九演奏会を実現することができました。



ソプラノの柴田泉さんはドイツの劇場合唱団で活躍しており、この演奏のためにドイツから駆けつけてくれました。ウィーン国立音楽大学を首席で卒業し、大阪国際音楽コンクール入賞を裏付ける澄んだ歌声と声量には圧倒されました。アルトの齊藤智子さんは現在、東京都を中心に活動する傍ら、地元リサイタルや訪問演奏などに積極的に出演しています。本業のソプラノとは違う音域でも、イタリア留学や数々のソロ活動の経験を活かし見事に歌い上げました。

バリトンを担当したのは現役音楽大学生の小野夏樹さん。小野さんのソロは、第四楽章で他のソリストの先がけとして歌う大切な役割です。初の大役から緊張がうかがえましたが、将来を期待させる歌声を響かせました。

この演奏会では、このように若手音楽家の活躍が目立つものとなりました。これまでも数々の市出身音楽家たちが市の芸術文化をけん引していますが、新たに音楽界と市の芸術文化をリードしていく若い次の世代が誕生し、育っていきることを実感することができました。次世代への音楽が確実に動き出し、これから十年後、そして二十年後と脈々と繋がっていくことが期待できる素晴らしい演奏会となりました。



第十四回北村山美術展に思う

村山市美術連盟 板垣雅一

第十四回北村山美術展が十一月六日から八日までの三日間、村山市民会館大会議室と式場を会場に開催されました。

搬入の際には、尾花沢、大石田、東根、村山の各会長、役員、事務局、会員からご協力いただきました。おかげで大作、小品あわせて六十四点の個性あふれる作品が展示されました。静物画、風景画、人物画、版画、彫刻などジャンルも多彩で、バラエティに富んだ趣のある作品ばかりでした。その中には、ひととき目を引く日展作家による技量

の素晴らしい絵もあり、入館者も満足していただけたと思っております。

今回の展覧会は十四回目になり、最初の頃より出品点数が減少したものの内容が深くなつたような気がしております。高齢のため絵を描く意欲がなくなつた方もおります。私もいつまでも若いつもりでありましたが、シニアクラブから声がかかる年齢になつてきました。しかし油絵を描くのはこれからだと思っております。

次回開催のときは、ギャラリートークを開きたいと思っております。また、若い人で美術連盟に入会したい方、いつでもお待ちしております。



大作が出品された北村山美術展



真下慶治記念美術館開館十周年・真下慶治生誕百周年記念企画展

年の記念の年度でした。

開館以来、多くの方々からご支援を賜り、真下の絵画はもとより美術館から眺める最上川の景観や建築様式に賛辞をいただけてきました。これからも大切に、次世代に引き継いでいかなければとの思いです。

さて、今年度は十周年等を記念して、文化交流をテーマに企画展を二つ開催しました。

一つ目は友好都市台東区所蔵の作品を展示した「芸大生



真下館長によるギャラリートーク

真下慶治記念美術館は、開館十周年と真下慶治生誕百周年

最上徳内記念館 市制施行六十周年記念企画展 「生誕百二十年高嶋祥光展」

市制施行六十周年と、名誉市民第一号の高嶋祥光生誕百二十年を記念した作品展が最上徳内記念館で開催され、昭和の懐かしい田舎の風景画や、子どもたちの遊んでいる様子が描かれた作品など約五十点が展示されました。

祥光の作品展は県内で幾度か開催されてきましたが、この度は絵巻、工芸、版画、羽織の裏地に描かれた作品など、

趣向を凝らした作品が多く並びました。特に「黄河作戦従軍絵巻」は、序文を雪害救済運動の先駆者松岡俊三が記しており、祥光と親交があったことを伺い知ることができ、また文章と絵で戦争の悲惨さを描いた興味深い作品でした。

二階展示室には、四季の風景を描いた屏風が並び入館者の目を楽しませました。

昭和初期から晩年までの作



品をとおし、日本画以外にも精力的に制作活動を展開した祥光の新たな魅力を浮き彫りにした作品展でした。

(市教育委員会 鈴木正人)

第50回村山市芸術祭

第五十回村山市芸術祭は、十月二十五日のフェブリエ「プロムナードコンサート」を皮切りに、十二月十四日の親父ロックバンド「スキップ・スーパライブ」までの一カ月半、村山市民会館を主会場に開催されました。期間中それぞれの会場には多くのお客様が訪れ、芸術の秋を満喫していました。



手拍子が会場を包んだ津軽三味線と民謡舞踊フェスティバル



聴衆を魅了した「村山混声合唱団フェブリエ」



秀逸な作品が展示された書道展



凜とした歌声が響いた吟詠大会



ハーモニーが響いた北村山吹奏楽団・秋のコンサート



艶やかな目舞公演

芸術祭 スナップ50th



笑いがあふれた赤ひげ「ショートストーリーズ」公演



立派な枝ぶりを披露したさつき盆栽展



労作が並んだ人形・押絵展



幽玄の世界 謡曲公演



和のハーモニーを楽しんだ三曲公演



温かい作品が並んだ手芸作品展



基点焼陶芸教室作品展示会



満員の股旅舞踊チャリティーショー



親父パワー全開！SKIPライブ



初参加のつるを編む作品展

一服どうぞ

村山市茶道連盟 小 関 節 子

発足してから今年で三十七年目を迎えた本連盟は、約六十名の会員がおりますが、いろいろな流派の集合体ですので、融和、協力を第一に「おもてなしの心」を求めて活動してまいりました。

連盟としての主な行事は、春の茶会、秋の茶会、芸術祭参加の茶会、市新年祝賀会での呈茶です。春、秋、芸術祭の茶会では、例年二席を準備しておりますが、各茶会共約百三十名のお客様にお茶を差し上げました。年々お客様の数が増えているのが嬉しく、励みになっております。お客様に満足していただいた茶会



にぎわった芸術祭お茶会

になっていたかを反省して、次回につなげていくようにしております。

茶会には、作法を知らないとなんとなく入りにくいと思われている人も多いと思いますが、新年祝賀会での呈茶は、そのような方々にも親しみを持っていたく絶好の機会です。日常の生活からちよっと離れてゆっくりお茶を味わっていただけたらと心がけました。

甌葉プラザの和室にも炬を作って下さった市の茶道へのご配慮に感謝しながら、一層の精進を期しております。



新年祝賀会の呈茶

生涯の友

村山市大正琴連盟 渡 辺 ヒサ子



美しいメロディを披露

大正琴連盟は六月のバラまつり、秋の芸術祭参加とホームの慰問などを行いました。芸術祭は参加させていただいてから二十一年目を迎え、年月の早さを実感しています。大正琴なんて見たこともない、音色も聞いたこともない私たちがでしたが、先生のご指導のもと、何カ月もかけて練習して、ひとつの曲に仕上がった時はとても達成感をお

ぼえます。私たちが八人のグループは、公民館をお借りして自主練習を行っていますが、その後の茶飲みも和気あいあいと色々なことを話し合いながら、悩んだり笑ったりと、そんな時間も楽しく過ごし「じゃあまたね」と解散します。私たちがいいよ高齢化の時を迎え、一人ひとりに色々なことも起こりますが、これから先もゆっくり騒がず楽しく、大正琴を「生涯の友」として過ごしていきたいと思っています。

三十周年記念合同撮影会

村山フォトクラブ 堀 澄 雄

芸文五十周年の年に、当クラブは結成三十周年を迎え、記念事業として六回目の北海道撮影旅行を十月に行った。今回は函館・大沼・恵山方面へ、厚岸映像集団「光風」メンバーとの合同撮影会となった。初日はJRを乗り継いで函館駅に到着し、何はともあれ皆カメラをぶらさげ、あちこち撮りながらロープウェイ乗り場へ。あとは一気に函館山

まで登ったが、明るいうちから混雑していて、暗くなる頃になると展望台は身動きがとれない程の人であふれていた。二日目は車に乗り大沼公園へ向かうと、駒ヶ岳も見え船の上からの眺めは素晴らしかったが、時間の都合もあり早々に恵山方面へ。途中、国宝「中空土偶」を拝見してきた。最終日、ひとあし先に帰る



北海道撮影旅行で訪れた大沼公園

「光風」のメンバーと再会を約束して別れた。これからもまだまだ交流を続けていきたいものである。

花を生けるといふこと

村山市華道連盟 湯 口 堅 正

大きなホテルのロビーの存在感ある大作。廊下にさりげなく置かれていた小さな花。旅先のホテルの生け花を見て疲れがとれ豊かな心になったことを思い出す。大作も小さな花も役目を演じて空間に生きていた。生け花の魅力である。

生け花は花、枝などを花材とするが、花材は生け花のいのちである。その花材を探しに山に入るのもまた楽しみである。私はなにげなく花材を「採ってくる・取ってくる・

盗ってくる」というようないろんな気持ちになる。しかし、心にとめておかなければならないことがある。それは、源義経の立て看板のことである。「この梅の木の枝を一本切ったものは、その指を一本切り落とすものとする。」人間のわがままなところを戒め、花や草木のいのちの尊厳を表すことを忘れないようにしなければならぬ。

毎年、村山市芸術祭に村山市華道連盟の池坊・華道栖草流・草月流・龍生派・小原流



甘い香りに包まれた五流派合同のいけばな展

の五流派が参加している。五流派のいのちの花展に足を運んでご鑑賞ください。

響け！ 命の鼓動

杉島諏訪太鼓保存会 平 山 龍 一

私たち杉島諏訪太鼓保存会は、杉島地区の祭りの日と元旦に村社へ太鼓を奉納したり、お祝い事で太鼓を披露したりするなど地元で根付いた活動を三十年以上行っています。打ち手の年齢層は小学生からシニアまで幅広く、演奏曲の構成は太鼓だけでなく、歌あり踊りありバラエティに富んで観るものを飽きさせません。

また、山形花笠まつりの時期になると「花笠太鼓保存会」として、安全祈願の太鼓奉納とパレード演奏を毎年行っています。そのご縁から、昨年五月の東北六魂祭二〇一四山形、ひとめぼれスタジアム宮城で開催されたロックバンド・GLAYの大規模ライブイベント、皇太子殿下を迎えた全国育樹祭にて花笠音頭を演奏することができました。誰もができない体験をさせてもらい、杉島諏訪太鼓を続けてきて本当に良かったと

芸術文化功労者を表彰



村山市芸術祭開幕式の席上、平成26年度芸術文化功労者が表彰されました。誠にありがとうございます。(10月24日市民会館)

【感謝状】

安齋佐和代（楯岡・社会音楽連盟）
堀 澄雄（楯岡・フォトクラブ）
柴田 伸司（西郷・杉島諏訪太鼓保存会）

【栄光章】

工藤 聖泉（大倉・書道会） 読売書法展 読売筆大賞
青柳 春城（戸沢・書道会） 毎日書道展 毎日賞
齋藤 竹華（楯岡・書道会） 毎日書道展 毎日賞
青木 葉山（富本・書道会） 毎日書道展 秀作賞
佐藤 黎花（楯岡・書道会） 毎日書道展 入選

【功労章】

松田 清男（戸沢・社会音楽連盟）
鈴木 龍彦（楯岡・吟友会）
齋藤 榮二（楯岡・フォトクラブ）
村山混声合唱団フエブリエ（社会音楽連盟）

また、山形花笠まつりの時期になると「花笠太鼓保存会」として、安全祈願の太鼓奉納とパレード演奏を毎年行っています。そのご縁から、昨年五月の東北六魂祭二〇一四山形、ひとめぼれスタジアム宮城で開催されたロックバンド・GLAYの大規模ライブイベント、皇太子殿下を迎えた全国育樹祭にて花笠音頭を演奏することができました。誰もができない体験をさせてもらい、杉島諏訪太鼓を続けてきて本当に良かったと



東北六魂祭2014山形に参加

樽石良一さん 山形県写真展「山形市議会議長賞」受賞

第四十九回県写真展で、樽石良一さん（村山フォトクラブ会長）が、山形市議会議長賞（入賞）を受賞しました。

この写真展は県写真連盟、山形新聞・山形放送、山形美術館主催によるもので、県内の写真愛好家六百十四人から計二千三百四十八点の応募があり、入賞十二点、準入賞十一点、努力賞十点が選ばれました。

入賞は、村山フォトクラブとしては十四年ぶりの快挙です。

受賞作「命中」は、寒河江八幡宮で行われた流鏑馬（やぶさめ）を撮影したもので、走る馬上から矢を射る一瞬をとらえた作品です。

樽石さんは「今回の作品はタイミングを捉えるのが難しかったが、努力が報われてうれしい。今後も祭りや風景など、動きのある被写体の一瞬を切り取るようないきいきとした作品を撮り続けて、フォトクラブの会員の皆さんと切

れられて、気がつけば既に踊っていたとのこと。平成二十六年の主な活動は、毎年開催している十一月三日の発表会と、河北町のどんが祭り出演、その他に花笠舞踊団として山形花笠まつりはもちろん、東北六魂祭、全国育樹祭、県内外の花笠イベントに参加しています。



若手に注目!

板垣恵里さん

「日本舞踊若二三会」と「杉島諏訪太鼓保存会」で活躍する板垣恵里さん。

は、お母さんから稽古場に連

担当し、村山徳内まつり

礎琢磨してがんばっていききたい」と語ってくれました。入賞おめでとうございました。（村山フォトクラブ 堀澄雄）



樽石良一さんの「命中」

では西郷徳内の中心として頑張っています。今後の目標についてお聞きしました。

「私たちの踊りを通して、徳内とはまた違った『踊り』の魅力を感じてもらい、『古典』『難しい』から『古典』『おもしろい』というイメージに変えていきたい。そして、佑二三先生はじめ諸先輩方が村山の地に『日本舞踊若二三会』『杉島諏訪太鼓保存会』という名を根付かせてくれたことに感謝して、それを途切れさせないことが私たち若手の役目です。」

平成二十六年度 村山市芸文協のうごき

4・23	会計監査
4・30	三役幹事会・理事会
5・30	総会
5・31	県芸文協会総会
7・17	三役幹事会
7・23	理事会
9・11	50周年記念誌刊行委員会
10・2	芸術文化功労者選考委員会
10・5	東京村山会（会長出席）
10・15	県美展・こども県展
10・24	村山巡回展（後援）
10・25	村山市芸術祭開幕式・功労者表彰式 プロムナードコンサート24th（後援）
11・6	第14回北村山美術展・第50回市芸術祭美術展（後援）
11・23	第7回松舞踊村山塾発表会チャリティショー（後援）
12・7	芸文協50周年記念事業・芸術祭シンボル事業・山形交響楽団村山定期演奏会「第九演奏会」
12・16	北村山芸文協懇談会（東根市）
1・9	市芸術祭反省会
1・16	芸文だより編集委員会
1・16	50周年記念誌編集委員会

あとがき

昨秋、酒田市の庄内文化フォーラムに参加した。多くの参加者で会場は満席。伝統芸能や活発なシンポジウムも行われた。伝統文化と現代芸能とのコラボ等があり創造の豊かさに驚いた。地域の活性化のため文化を大切にしている発表に圧倒されて帰ってきた。

人口減少の村山市の二十年后、三十年後を勝手に想像すると悲しくなる。しかし、村山市にも地域に根ざした芸能や各団体のレベルの高い芸術文化がある。これからの地域文化に小中学生を巻き込んで継承し、文化を大切にしたい。おこしに期待したい。（編集委員長 湯口堅正）

芸文だより編集委員

- 湯口 堅正（村山市華道連盟）
- 板垣 雅一（村山市美術連盟）
- 小関 節子（村山市茶道連盟）
- 後藤 敬子（村山市大正琴連盟）
- 平山 龍一（杉島諏訪太鼓保存会）
- 堀 澄雄（村山フォトクラブ）